

受講番号 19098 学校名 中村西中学校 氏名 柴田 超

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 1年生 生徒数 33名
 科目名 第1学年 単位数(授業時数) 3時間 使用教科書名 ONE WORLD English Course

クラスの様子・特徴

コミュニケーション活動ではペアになり積極的に活動できる。活動したことを発表する場面では、ほとんどの生徒が手を挙げ、発表したいという意欲を見せる。また、間違いを恐れない生徒もいる。しかし、私語がおさまらなかったり、ケジメに欠けることもある。

問題の確定

単語テストの結果やアンケートの結果からも分かるように、「書くこと」を苦手とする生徒が多い。書く力を付ける手立てが必要。

予備調査

A 授業の観察	B 生徒による授業評価	C 学カデータ
生徒の動きがある授業を好み、少人数での活動を積極的に取り組む。しかし違った相手と活動することは少なく決まったペアと活動することが多い。授業の中での教師による質問にはとても反応がよく、発表も積極的にできる。	「楽しい授業」を望む生徒が多い。またアンケートの結果によると、「書く力」を伸ばしたいという生徒が多い。「楽しい授業」の中には「分かりやすい授業」という意味も込められており、これらことを意識して授業をする必要がある。	4月当初、アルファベットを書くことができるようになり、少し英語に対しての自信がついた。自己紹介文は書くことができる。しかし、決められた内容は書けるものの、自分から書くことを見つけたりすることは難しいと考えられる。

リサーチ・クエスト

語彙力も含め、書く力を伸ばすにはどのような手立てをすればよいか。

仮説・実践・検証

仮説1 毎週、最初の授業に小テスト「単語テスト」を実施することによって、書く習慣を付けさせることで語彙力を伸ばすことができるだろう。	実践1 毎週の週明けに予め範囲を指定していたところの単語を5問出題し、教師が発音する単語を聞き取って、その単語を書き取るテストを行った。英語1点×5問=5点 日本語の意味1点×5問=5点 合計10点満点で行った。一週間前に予告をするため、生徒は範囲の単語の練習をする時間が与えられる。結果を返したときに、テスト用紙の裏に間違えた英単語のみ10回練習して再提出した生徒にはその単語につき、1点を与えた。	検証1 毎日の英語の宿題において単語を練習するきっかけにもなり、良かったと思う。約2割の生徒はなかなか点数に結びつかない結果になった。その他の約8割の生徒が10点満点中、平均点5点台から10点までを占めている。単語練習等、毎日の宿題が毎回の単語テストの点数へと結びついている。単語練習の定着のため、語彙力向上のために、継続して「週明けテスト」を行う。
仮説2 コミュニケーション活動で取り組んだことを、書く活動へとつなげていけば、書く力が身に付くだろう。	実践2 コミュニケーション活動で使った表現を実際に文章にして書く活動へとつなげた。全てのコミュニケーション活動において書く活動につなげることができなかったが、毎単元ごとのテスト(単元テスト)の中の「表現の能力」で力を測った。その単元テストの中に、コミュニケーション活動後に書いた全ての内容を出題した。	検証2 全ての単元テストでは30点満点にした。20点台・30点満点の生徒が約51%と半分以上を占めた。しかし残りの約半分の生徒がまだコミュニケーション活動で使った表現を書く力が身に付いていない。活動の中でもっと表現を練習する時間を与えることが必要だったと考えられる。何度も繰り返し、表現に慣れて、自信をつけてから書く活動へとつなげる必要がある。
仮説3 本文など、まとまりのある文を何回も繰り返し読む練習をすることによって、文の語順などの構造が自然に身に付くだろう。	実践3 教科書の本文のリーディングを通して英文の語順の定着を図った。できる生徒には本文の暗記や、シャドーイングをするように試みた。全ての生徒が暗記やシャドーイングとまではいかなかった。その成果を単元テストとは別に20点満点の「確認問題」で力を測った。本文並べ替えや、簡単な問題を数問出題し、学習したことを振り返ることができる「ちょっと復習」も試みた。	検証3 15点以上20点未満の生徒が半分以上を占める。しかし、全体の2割の生徒は、語順が身につけていないとも言える。これまで、比較的容易な本文については暗記できる生徒もいたが、毎セクションの本文を暗記するところまでは高めることができなかった。暗記ができたり、シャドーイングができる力があれば、語順が身に付き確認問題においても高得点を維持することができている。

研究の成果

「週明けテスト(単語テスト)」について毎週最初の授業の始めに行った。10点満点にした。多くの生徒は、毎日の単語練習等が定着し、点数に結びついている。大きな負担にならず、単語力をつける上で大きな成果となった。各単元ごとの「単元テスト」では、コミュニケーション活動後の書く活動での内容を全て出題した。使った表現をすぐに書くことへと結びつけ、多くの生徒は単元テストに成果を出すことができた。語順の定着においては、暗記やシャドーイング、「確認問題」や「ちょっと復習」を通して、身に付けることができた。

今後の授業改善の課題

「週明けテスト」は引き続き行っていく。授業で繰り返して単語の発音練習をしていく。書く活動においては、コミュニケーション活動で使った表現に慣れる前に、書く活動へ展開することもあるので、表現を練習する時間をもっと与える必要がある。より一層自信をつけた上で、書く活動へとつなげていく。また、暗記テストやシャドーイングテストなど、自分の力を数値で分かりやすく生徒に返していくと意識付けにもなると考えられる。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

0880-37-2288